２００５年　４月　２４日　東部地区最終日

しらこばと競技場に初めて行った。
診療室の仕事を終えて着いたときには
すでに２００mの決勝だった。

先着していた嵯峨根さんに聞くと、
総合優勝が有力だという。
もしそうなれば嵯峨根さんら１９７８年以来である。

２００mで肉離れや、マイルでバトンを落としたら・・・
そういうシーンを幾度も見てきた。
わが子を憂う親の気持ちになった。

「どうか、２時間後、この子たちが笑顔で試合を終えられますように」

真剣に祈ってしまった。

しかし、２００mの選手達を見て、「ああ、これは勝てる！」
そう確信した。
想像以上に後輩たちはたくましくなっている。

春高の歴史をひもといても、めったにない１、２、３位独占。
場内は赤シャツの迫力に唖然となった。

総合はマイルで決まる。
大ミスさえしなければ・・・・

だがそんな心配は杞憂だった。

スタートから石川が飛ばす。

高橋　大が位置を確認しながら
ラスト直線で走りが冴える

伊藤が安定した走りでトップグループを走る。確実な順位取りだ。

奥岡がまさに計算通り。
ラスト１２０ｍで抜け出した。

万全策でマイル制覇だ。
同時に総合優勝の決定だ。

男子総合優勝杯授与。

竹村競技委員長が自ら後輩に渡す。
感無量である。

実は竹村さんが春高の定時制教員としてコーチに付いた時以来の総合杯なのだ。２７年が経ってしまった。

思いも特別なものであったろう。

歴史的一枚。二年後に主将を務める弓削、競歩の高島ら新入生は
まだ春高ジャージも着ていない。

奥岡の先輩ＯＢもかけつけ、総合杯を祝う。　春高はこうして何十年もつながっている。
母校陸上部を誇りに思う。　もちろん勝ったからそう思うのではない。

筆　撮　　のもと歯科